

発行日 \*\*\* 2013年3月1日

e-mail:akutagawa\_dayori@yahoo.co.jp

皆様からの投稿をお待ちしております

編集発行人 下村嘉明

発行所

☆ 着物から服へ

梵

着物から服を仕立てます

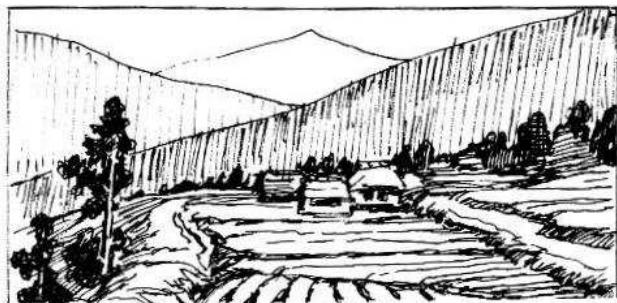
高槻市芥川町2-14-3

TEL072-681-8870

\*\*\*\*\*

一部50円です

\*\*\*\*\*



### 節句の菱餅

親戚の家に子供がうまれると初節句には餅を家でついて届けて祝ったものだ。赤や青、黄色の色粉を使った大小の菱餅や蓬を混ぜた蓬餅などである。米と赤白の熨斗を掛けた半紙を添えて持つて行くのである。

私が小学生になった頃、叔父の家に長女が産まれた祝いに母と行った時の事である。当時はどこへ行くのも歩きだったので苦にもならなかったが、なにぶん不便な村だったので、めったに行かなかった。しかし、母の末弟の待望の子であったから、母は勇んで前日に餅をつくり背負って出かけたのである。

叔父の家は、山のすそ野の見晴らしのよい棚田の中にあった。家に着き挨拶をしてお茶をいただき、大人たちの話が盛り上がってきた時、隣の家の主人が「初節句ですから、祝いの餅を持ってきました。上手くつけませんでしたが…」と簡単な挨拶だけをして帰って行った。母は「まあ、丁寧な、ひとりでついちゃったんやろか」とあきれたとも感心するとも取れる言葉を言った。叔母が「せやてや、どないして一人でしちゃったんやろ」と相づちを打った。話を聞くと、隣の主人は、若くして奥さんを亡くし男手一つで子供を養ってこられたらしい。

「無理して、祝いを届けなくともいいのに」そんな大人たちの雰囲気を察して、叔母が早速、持ち込まれた包みを開けた。その餅は米粒がいっぱい残っているような餅であった。私は、その餅を見た時、恥かしくなって隠れたい気分になった。顔を背けたくなった。幼心にも餅らしからぬ餅で決して食べたくなるようなものではなかった。餅をつく時は、つく人と混ぜる役の2人が素早くしないと、蒸したもち米がすぐに冷え米粒が残るから、一人ではうまく出来ない。

私も、親しい人の葬儀の際に香典の金が都合つかず窮する事があった。義理を欠いてはいけないと工面出来ない情けなさとで落ち込んだものだ。そんな時、あの出来の良くない米粒が表面から飛び出しそうになった餅を思い出すのである。さぞかし、あの時の主人の気持ちは複雑だったにちがいない。こんな餅しか作れなかつた不甲斐なさ、それでも祝いとして届けなければと思う気持ちなど、なんともやるせない迷いと恥じ入る心が渦巻いていたんだろう、と思い返すのである。(嘉)

私は、すぐにえらい事を言つたと反省し、トイレに逃げた。酔いにまかせて思いつきを言つただけなのだが、何か後味の悪さを感じた。薬のためか知らないが最近の私は言う言葉の最後に、言わないでいい事を言つてしまふ癖が以前にまして強くなつているように思える。

そんな私が、もし娘達に介護をしてもらいたい最期を看取つてもらうことになつたら、どんな言葉でもつて娘達を困らせるか容易に想像できる。私の口封じのために、神は如何なる方法を考えられるのだろうか。聖書をわか読破したくらいで謙虚な人間に

怖いと思っている奥さんは、先輩の化身です。気ままな想いが爆発しないように、漬物石のようにおさえてバランスを取るため、神が使わしたものう一人の貴方なのですから、大事にすべきです」と答えてしまつた。

私は、すかさず「それは先輩の妄想です。怖いと思っている奥さんは、先輩の化身です。気ままな想いが爆発しないように、漬物石のようにおさえてバランスを取るため、神が使わしたものう一人の貴方なのですから、大事にすべきです」と答えてしまつた。

私は、新年会に誘われて、病身であることも忘れ深酒におぼれてしまった。

私がその席で自慢げに、聖書を入院中旧新とも読破したと言つたら、親しい先輩から「毎日、家内に困つてゐるのだが、どうしらよいのか、教えてくれ」と諸先輩たちの面前で問われた。

梵店主

連載 爺捨て山 43



## かすかな光

梵店主

よつちゃんの店の隣にあるクリニックのT先生に「下村さん、あなたの症状はどうなります？」と聞いた。

先生は「歩けなくなり、そのうち心臓の筋肉がやられる」と答え、「私は65歳で死にたいと考えていますから、死んでもいいですけど」というよつちゃんに「足腰の筋肉と心臓の筋肉は種類が違っていて、歩けなくなるのは2年後であっても心臓がやられるのは5年先かもしれない。その間、たいへんな苦痛を味わうことになる可能性がある」と先生は冷静に答えた。

「治療方法はあるのですか」と訪ねると先生は「ステロイドという薬があつて、効く人には効く。ただ効かない人もある。」とステロイド剤の事を細かに教えて下さった。

よつちゃん「その薬を投薬してください」と先生「どこの大学がいいですか？」よつちゃん「家から車でなら行き易いH大学病院がいいです」

よつちゃんにとって大学病院に行くと間の問題だと素人ながら思えて、肉体的、精神的にも時間的猶予が無くなっていたのである。

肝炎と診察して治療して頂いたH医師に、治療が長くなりそうだから、店の近くの知り合いであるT医師に見てもらいたいから紹介状をお願いしたと申し出たところ快くその場で書いて頂いた。

翌日、その紹介状を持って、T先生の診察を受け、血液検査を受けた。数日後、

よつちゃん「そうですか、これまでかか

生はわりと簡単な診たてをするが、膠原病の先生はねちっこい。時間をかけて根

堀葉堀探っていく。科が違えば、診立て

の仕方がまるでちがうから同じ医者と考

えてはいけない。」

よつちゃん「そうですか、それだけちが

うものですか」

先生「私は、消化器科ですが、集中治療室での勤務時、他科の同僚達から勉強させてもらつた」

よつちゃん「わかりました。じゃあ、大

学病院を紹介してください。ダメもとで

すから行つてみます」

先生「どこの大学がいいですか？」

よつちゃん「家から車でなら行き易いH

大学病院がいいです」

よつちゃんにとって大学病院に行くと

いろいろ話してくれて、「書く材料」に

西洋医学を否定しているので、妹として

それ自体に害はないと思うが、どこかで

ムダの、体を温めるだの、いわば昔なが

やつたからだ。普通とは違うやり方と

いつも、ニンジンジュースを大量に飲

むだの、体を温めるだの、いわば昔なが

やつたからだ。普通とは違うやり方と

</div

日本中の人が、被災地のために何かしたいと熱烈に思つていた、あの時期に。私は、姉が義兄の身内には関わりたくない、かたくなに思つていて、しかも行けば、義兄が放射能を浴びてしまうのではと心配しているとばかり思つていたのだが、違つていた。「いま、向こうへ行つたら、（義兄が）コンビニ弁当しか食べられへんやろ。それがイヤやねん」だと。放射能よりコンビニ弁当を忌み嫌つていたとは。コンビニ弁当というのは、食養生ができない、といふことの象徴だが、やつぱり姉は、ちよつと普通の人とは感覚が違う。義兄が発病する前のことだが、姉の家の裏に、タヌキが出没し、狂喜乱舞した姉はせつせと瘦せダヌキ一家にエサを投げ与えていた（野生だから、一定の距離以上は近づいてこない）。「見においでえ、可愛いでえ」と自慢しました。その後、姉は言つた。「私な、タヌキトじやあるまいし。「そんなことしたらアカンやろ！」と叫ぶ私に、姉は涼しい顔で、「エサ投げたつても、どの子が食べたか、わからへんねん。同じ子オバっかり食べててやうな気がするねん」。数匹がエサ（チクワなどを投げていたようだ）に群がると、そりや、個体の識別不能。

これがネコやイヌなら、ブチとか、多少の毛並みの違いで判別できるかも知れないが、タヌキでは無理だ。それで姉はリボンの色で、「ピンクの子は食べてたけど、ブルーの子は食べてない…。今度は、ブルーに目がけて投げたら」とわかるようにリボンを付けたいと言つたのだ。普通、そういうこと、思つくだらうか。

タヌキ一家の方は、リボンを付けられたらかなわない、と思ったのか、もつといいエサ場を見つけたのか、出没しなくなり、姉が近所の奥さんたちに「変なもんにエサ、やらんといて下さいつ」と怒鳴りこまれることなく過ぎた。

タヌキ狩りに合つたわけでもなさそうで、たまに、裏に現れて、姉たちを和ませているようだ。もちろん、リボンは付けていない。

姉が変、なのだ。「変」は昔からだつたのでは?と言われそうだが、「変」の度合いが違う。暗く、ねじれた「変」なのだ。1月に、「甥っ子とナンバに行かない?」と誘つたときに、姉は言つた。「行かない。2度と誘わんといて」。姉は外食が義兄の体に悪いと思つているが、それにしても「2度と誘うな」と言う言い草はない。

正直に言おう。姉は、そういうお金を使うことがイヤになつた、というかできなくなつたのだ。

姉一家は、きつちり貯金をしていて、「検査は3カ月毎でしたが、半年に1回に心臓か肺機能かが低下していく、5年前ほどの元気はないが、生活には何ら差し支えないです。放射線治療は体内ヤケドみたいなもので、回復には時間がかかるようです。○○ちゃん（嫁、私の姉のことだ）は都合により、私の健康を勝手に悪くしたり、よくしたりしますので、さほど気にかけず聞いて下さい」とわかるようにリボンを付けたいと言つたのだ。普通、そういうこと、思つくだらうか。

タヌキ一家の方は、リボンを付けられたらかなわない、と思ったのか、もつといいエサ場を見つけたのか、出没しなくなり、姉が近所の奥さんたちに「変なもんにエサ、やらんといて下さいつ」と怒鳴りこまれることなく過ぎた。

残された人生の時間を、姉と義兄、面白おかしく珍道中をしていくてくれたら、もう何も言うことはない。

ここで、平和に締め括りたいところだが、実人生、そんなに甘くはないのだ。姉が変、なのだ。「変」は昔からだつたのでは?と言われそうだが、「変」の度合いが違う。暗く、ねじれた「変」なのだ。1月に、「甥っ子とナンバに行かない?」と誘つたときに、姉は言つた。「行かない。2度と誘わんといて」。姉は外食が義兄の体に悪いと思つているが、それにしても「2度と誘うな」と言う言い草はない。

正直に言おう。姉は、そういうお金を使つたのがイヤになつた、というかできなくなつたのだ。

姉一家は、きつちり貯金をしていて、「一生、夫婦で食べていいける分はあるねん」と豪語していたが、使わなければならぬお金は、年金生活になつても、

増えるばかり。

そこそこ高給取りだつた義兄だが、

厚生年金はみんな減額されているし、

の姉のことだ）は都合により、私の健康とくに、60歳の定年から2年目では

大した額にはならない。姉自身の年金は、「毎月もらえるのかと思つたら、1年分だつた」と姉が呆れていたぐらいの金額だから、話にならない。

それでいて、医療費はかかり、その何倍ものお金を食養生に使つていて、えに、「宗教ではないが、宗教のように信じているT先生の教えを学ぶ」必要があるので、それら以外に、「余分なお金は使いたくない!」症候群にかかつてしまつた、と私は勝手に理解してい

る。何かに腹を立てていてみたに、母の家にもめつたに顔を出さず、当然、息子夫婦、自分の妹弟とも、無駄なお付き合いはしたくないという、あからさまな拒絶ぶり。

いつから?と聞かれると困るのだが、私が気がついたのは、今年になつてからだ。その少し前から、息子夫婦を毛嫌いして避けていたから、兆候はあつたのだが、今はすべて没交渉。姉妹げんかとか、そういうレベルではなくて、姉は義兄と自分の暮らしを守ることだけに専念すると決め、いまはその世界で充足している気配なのだ。

お金のことやつきあいのこと、もちろのストレスから逃れるため、姉の

取った自衛手段だと思えば、少しわからぬ気もするが、実際のところはわからぬ。

しかし、そろそろ春だ。「みんなでお花見に行かない?」と誘つたら、「2度と誘わん」といて、と言うたやろつ」と怒られるだろうか。家族の問題は一難去つてまた一難。簡単にハッピーーンドにはならないと諦めて、新たなる一步を踏み出すしかない。こんな終わ

り方ではスッキリしないが、いつか、私のクレージー姉チヤンがその後、どうなつたかをお知らせできる日がくるかも知れない。(完)



## 追悼 ああ…キミちゃん

梵店主

1月の一番寒い日に、キミちゃんは86歳の天寿をまつとして、あの世へ旅立つた。入院して三ヶ月もしないうちに、あつきりと息を引き取つたキミちゃんの死には、僕が考へていたようなこの世の別れであった。キミちゃんもきっと清々しい想いであつたにちがいなか。納棺さ

れたキミちゃんを見て、僕は「キミちゃん、バイバイ!」と声をかけてしまつた。周りの人のすり泣く声や悲しみ姿の中でも、僕は一向に悲しい想いがしないばかりか、むしろさっぱりとした気分であった。

亡くなる二十日ほど前に「ヨシ、明日退院して帰るさかい」と電話をくれたので「わかった、わしも明日田舎へ帰るわ」と返事した。

翌日、車を飛ばしてキミちゃんの家に行くと母親と叔父の重ちゃんが来ていた。キミちゃんは痩せた身体を横たえて、その表情から退院できる病状とは思えなかつたが、不自由な病院でのことを思えば、一日でも二日でも自宅へ帰りたかったのだろうと思いつた。しかし、病状から自宅では看護できないから、一晩寝ただけであった。これが自宅で過ごした最後の時間となつたのだ。

金持ちで保守的、閉鎖的な高齢者が多い中、キミちゃんの生き方が異彩を放つ生き様として僕の心を魅了するのはなぜなのだろうか。彼女の金銭などの物事に執着しない自由な精神でもつくなつたのは、ここ20年ばかり前からである。

母の妹であるキミちゃんは、僕の理想とする人生を送つた叔母である。僕の気持ちがキミちゃんに魅せられるようになつたのは、ここ20年ばかり前からである。

ながらも、僕は、キミちゃんに対する不思議な好奇心を持ち続けていたのである。

キミちゃんの性格は社交的で、誰彼ともなく好かれる開放的な雰囲気を持ち続け、いつも家には近所の人たちがサロンのように集まっていた。けつし

て余裕のある生活ではなかつたが、キミちゃんのやさしい気遣いと楽しい会話を引き寄せられたのだろう。キミちゃんはシルバーセンターに登録しては、近所の仕事をして日々の生活の糧を稼ぎながら周りの人たちに癒しの空間と時間を提供し続けたのである。僕が理想とした「爺捨て山」を自宅で実践し、人生をみんなと共に懸命に生き楽しんだと思える。

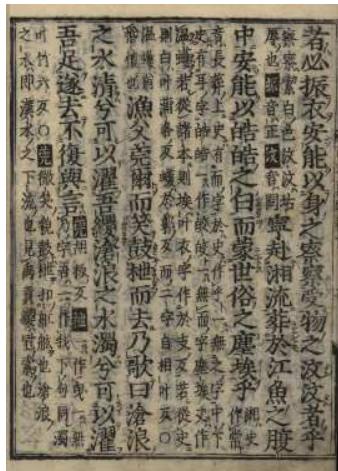
「迷惑」の来歴 大江雉兎

前回の記事は、公共の交通機関へ大きな荷物を持ち込むことを材料しての雑文だったが、その後、「迷惑」という言葉をめぐつて少し考える機会があつた。発端は、文章を読んでくれた方からの感想で「自分の行為が他人に不快感を与えていると言う認識が、行為をする側にあり、かつ受けた側にも被害意識があれば『迷惑』になるが、一方が思うだけだつたら『迷惑』にはあたらないのでは?」というものだつた。そのご説に従うとすれば、バスの中へ大きな荷物を持ち込んで人の流れを押し留めていたとしても、自分の荷物が周囲に不都合をもたらしているという自覚がない場合は「迷惑行為」という言葉で表現するべきではないということになる。「迷惑」と言わずに「非常識」と言うとかの方向へ議論を持つていくかどうかはさておき、確かに荷物であれ行為であれ、露骨に嫌な顔をする人が近くにいると「迷惑をかけるな」という自覚も出てくる。それに対してもわりが素知らぬ顔をしていると、なかなか自覚には至らない。「他人から指摘されると前に、そのくらいは気づけよ!」といつた道学先生からのお言葉が飛び出すところだが、ひと昔なら当たり前だつたことがちょっととした気配りと見なされるようになり、さらにそんな気配りが希薄になつた。

て、それが「迷惑」という言葉は、そもそもどういう意味なのかといったところが気になっていた。日常的に使われる言葉でも、漢字で表現される熟語には、現代語とは異なる本来の使われ方が指摘されるものが少なくない。

「自由」という言葉の本来の意味はしまりなく好き勝手にふるまうという内容だった云々が、よく知られているケースではないかと思うが、どうやら「迷惑」という言葉も、現代語とは相容れない意味で使われていたらしい。

古代中国の散文に「楚辭」とよばれるものがある。漁夫の利ならぬ「漁父の辭」を含む一群の作品だが、その中に宋玉という官人の「九弁五首」と題された一編があり、「迷惑」が使われている。主君に容れられずして放逐の身となつた作者が、秋の情景に託して悲しみを綴つたもので、お目通りがかなわずに馬車に寄りかかつて涙する場面を「中は瞀乱して迷惑す」と表現している。心中はかき乱されて戸惑い困惑するばかりとの内容なので、「迷惑」とは、漢字一字ずつに分解した「迷い惑う」の意味であることが分かる。また心情表現ではなく、道に迷うという即物的な意味で用いられるケースも



あり、現代語でいうところの「迷惑する」「迷惑をかける」とはすいぶん異なつて、その用例でも、日本では「迷惑」の意味である。

平家物語には贅を尽くした王宮にあがつた小心者が「心、迷惑す」といった使われ方が見られ、楚辭の用法に通じる。

こうした一人称的だった「迷惑」が現代語のように他人に不都合を及ぼす状態を指すようになったのは近世のことのようだ。西鶴らの読み本作家をターゲットにした禁令では「御公儀之儀ハ不及申、諸人可致迷惑儀」との文言が見られる。風紀紊乱をもたらす出版は公儀はもとより諸人も迷惑している云々との内容で、そのまま現代語の「迷惑」に通じる。明確な線引きをしてこれまで以前は古い使われ方で、これ以降は新しい意味とかの分別はできないのはいうまでもないが、「迷惑」という言葉は近世になつて意味や用法が日本的に変えられていった漢語なのかも知れない。

海外駐在員の重要な任務の一つは日本から来られる客先の接待だが、これに国内各店のお偉方のアテンダントが加わるので、課員の奥さんにも手伝つてもらうことになる。

シカゴのように冬が厳しいところでは通勤にも困難を伴うことがあり、お互いに連絡を取り合つて安全確認も怠れない。三〇年以上も前の話でもう時効だと思うので、当時の私の部下に関するエピソードを書いてみたい。

私より一年前に大阪支店より転勤していたA君は甲南大卒、当時三〇歳くらいい、電炉用耐火煉瓦、バンダグ更生タ

土田 裕

邦人社員

日本の本社とか大阪支社のように沢山の社員と一緒に働いているときは、家族ぐみの付き合いは特殊なケースを除いて少ないが、海外店の場合は同じ店で働いている日本人が一〇一一〇人（ニューヨーク本店は別として）で、

課単位では二一四名なので勢い家族付き合いが多くなる。従つて日本では殆ど知ることのないそれぞれの家庭事情も否応なく知ることになった。

海外駐在員の重要な任務の一つは日本から来られる客先の接待だが、これに国内各店のお偉方のアテンダントが加わるので、課員の奥さんにも手伝つてもらうことになる。

シカゴのように冬が厳しいところで車が途中でエンストしたので、ガソリン・スタンドへ駆け込み、直してもらつて、漸くA君が帰ってきた。

「車が途中でエンストしたので、ガソリンは快活な奥さんも半泣き状態で、私も途方に暮れてしまつた。一二時近くまで待つて、漸くA君が帰ってきた。

「車が途中でエンストしたので、ガソリンは快活な奥さんも半泣き状態で、私も途方に暮れてしまつた。一二時近くまで待つて、漸くA君が帰ってきた。

有名な黒人歌手に似ていたのでニックネームは「サミー」と呼ばれていた。「風の街、シカゴ」の項でも述べたが、着任した最初の冬は大変な大雪で通勤には大変な苦労をした。

ある晩、終業後いつもの通り課員四名で会社の地下のバーで一杯飲み、七時ごろ三々五々帰宅した。一〇時過ぎになつてA君の奥さんから拙宅に電話あり「主人がまだ帰つてこないので心配している。電話連絡もないのでハイウェイで交通事故でも起こしたのではないか」という。取りあえずA君宅へ行き、ハイウェイ・パトロールに電話して事故の情報がないか聞いてみたが、事故は起こつていないと。雪は相変わらず激しく降つていたので、日ごろは快活な奥さんも半泣き状態で、私も途方に暮れてしまつた。一二時近くまで待つて、漸くA君が帰ってきた。

「車が途中でエンストしたので、ガソリンは快活な奥さんも半泣き状態で、私も途方に暮れてしまつた。一二時近くまで待つて、漸くA君が帰ってきた。

「車が途中でエンストしたので、ガソリンは快活な奥さんも半泣き状態で、私も途方に暮れてしまつた。一二時近くまで待つて、漸くA君が帰ってきた。

その後、分かつたことは、地下のバーのウエイトレスでちょっと可愛い女性がいたのだが、A君は彼女のアパートに行つた。

東京本社から派遣され、彼のアシスタン

トで使われていた研修員の話だつたが、

証拠もなく、本人が認めるわけもないの

で、秘密のままとしておいた。ただその

後、本人が出張しているとき、たまに地

下のバーから「サミー?」と件の女性か  
ら電話がかかつてきただので、やはりあの

話は事実だつたのだと思つた。

その後も同君の女性に優しい（だらし

ない?）性格は治らず、A君が帰国した

後、私とは別の部に配属になつたのだが、

女性関係の良からぬうわさが時々私の耳

に入つてきた。

本人の名誉のために言つておくと、仕

事は有能で耐火煉瓦商売の利益率は非常

に高く物資課の利益に対する貢献度大で

あつた。また人懐っこい性格で電炉メー

カーへの出張には時々私も引っ張り出さ

れたが、お客に会つたとたんに「ギブミ  
ー オーダー」と素直に言えるなど客先に

大変好かれていることは分かつた。

私より6カ月遅れで着任したB君は東大

卒のエリートで、A君の1年上、本店物

資部から転勤してきた。私が半年間担当

していき、自転車、自動血圧計の商いを彼

に引き継いだ。商売拡大のための戦略を

立てるのがうまく、血圧計の商売は2年

間で1千万ドルくらいの商いにまで伸張

した。

東大卒一般に言えることだが、要領が

よく支店長に対する根回しに優れてい

た。また自分で動くのではなく、実務は

全てアシスタントにやらせていた。

この要領の良さが後に彼が本店に帰つ

てからの出世の妨げになつたのではない

かと思う。というのは約一五年後、当時の

要職につけようとすると、必ず誰かからブ

ラックメールがあり反対意見がでてくる」

と言つていた。

ある時、A君が本店のある女性からの手

紙を持ってきた。「Bさんは私を置いてシ

カゴに行つてしまつた。私はどうしたら良

いの?」と書いてあつた。プライベートの

問題なので、当人間で解決する他ないので

が、酒の席でそれとなく聞いてみても「そ

んな事実は全くありません」と否定するの

で放つておいた。

件の彼女はかなりの美人でその後長い

間独身のままだつたが、四十歳を過ぎて寿

退社した。

### ドルの実力

この原稿を書いている二〇一一年一一

月時点では替は一ドル七六一七七円の超

円高で推移している。私がシカゴに着任し

た一九七八年末は二〇〇円近辺、一九七九

年になつて二二〇円から二五〇円を上下

していたので、現在のレートから見れば、

大変な円安であった。

それでも一九七六年頭までは三〇〇円以上で推移していたので、為替差損を避けるため日本の輸出業者の殆どは対米輸

出の通貨を円建てとしていた。米国

国内では円建ての決済はできないの

で（今でも変わっていないと思うが、

かり、関税障壁のある耐久物資は現地生

産に切り替わつた。

日本得意とするテレビなどの家電関

物資本部長（取締役）が「彼を総括部長など

交換はしてくれなかつた）、商社がド

ルに換算して客先に請求することに

なる。

本からの輸出では対抗できないの

で、供給元を台湾などに切り替えつ

つあつた。

あれから三十年経つてドルの価値

は六〇一七〇%下落し、円は二・八

倍に強くなつたことになる。ドルの

購買力は二分の一から三分の一にな

つたことになるが、米国の物価がそ

れだけ高くなつて国民が物価高で困

つたという話は聞かない。理由は米

国側が付加価値の少ない製品は日本

ではなく中国、台湾などからの購買

に切り替えたからである。

また本来なら日本の対米輸出は激

ちできる商品に集中したことが主たる理由だと思う。また自動車など輸送費が掛けて（今でも変わっていないと思うが、かり、関税障壁のある耐久物資は現地生産に切り替わつた）。

日本得意とするテレビなどの家電関係はその当時から米国メーカーは生産を止めおり、ソニー、パナソニックなどが市場の大半を占めていた。

ところが三〇年経つて最近では韓国・

台湾メーカーに圧倒されて日本メーカー

はその後塵を拝しているという。日本メ

ーカーも供給基地を中国、台湾、タイなどに移しているので、円高だけが理由で

はなく、デジタル技術の進歩でテレビなどに品質格差がない上に、価格は韓国製

どは品質格差がない上に、価格は韓国製品の方がはるかに安いからである。

米国駐在中に痛感したのはアメリカで売

られている日本の電気製品が異常に安い

ことであった。具体的な金額は忘れたが、

テレビ、カメラなど円に換算すると日本

と同じモデルが三〇一四〇ペーセントは

減少するものだが、実際はさほど

減っていない。理由は様々あるが、

日本企業が生産基地を中国、東南ア

ジアに移して第三国からの輸出に切り替えた。日本からの輸出は付加価値

が高く技術的にも米国企業に太刀打

二十万円で売られていた。

二月の日米首脳会談はどんな意味があつたのだろうか。アメリカ側には歓迎されていました様子はないし、会談では安倍一人がハイテンションでペラペラとしゃべり、いっぽうのオバマはシラケているというか、冷ややかな表情であった。会談後の記者会見で安倍は「日米の絆と信頼を取り戻し、緊密な日米同盟が完全に復活した」などと胸を張って自賛する姿は、目を背けたくなるほどケイハク性が発揮されていた。

前ノブタ政権は従米路線まつしぐらであつた。オスプレイでも、普天間基地問題でも、TPPでも……。つまり民主党政権のときから、従米という意味では日米関係は良好で緊密だつたということことだ。安倍政権は日米関係をさらに深化させるということなのか。それが危ないのだ。会見で安倍は、防衛大綱の見直し、防衛費の増額、集団的自衛権行使の容認などの方針を示して、米軍と一緒に安全保障政策を行うことをアピールした。とりわけ集団的自衛権行使の容認というのが危ない。安倍は何としても日本を戦争のできる国にしたいらしい。

集団的自衛権という概念は国連憲章にはじめて登場するが、51条に次のようにある。「この憲章のいかなる規定も、国連加盟国に対して武力攻撃が発生した場合には、安全保障理事会が国際の平和及び安全の維持に必要な措置をとるまでの間、個別的又は集団的自衛の固有の権利を害するものではない」。つまり個別的自衛権にせよ、集団的自衛権にせよ、暫定的な措置であり、例外的位置づけなのだ。集団的自衛権というのはどうもアメリカが自国の軍事活動を正当化するためにつくりだした概念ようだ。

ところで、小泉が諸手を挙げて支持し支援したイラク戦争だが、けつきよく戦争を起こす原因となつた大量破壊兵器は見つからなかつた。この戦争に正当性などなかつたということだ。批判が高まつたイギリスやオランダでは検証委員会がつくられ、オランダはイラク戦争は国際法違反と結論づけている。イギリスでは支持率を大幅に下げたブレアは早く期退陣を迫られた。ポーランドは、アメリカにだまされたと非難している。

リカにだまされたと非難している。ひるがえつて、熱烈に支援した日本はこの戦争を検証した形跡はない。小泉批准が起ることもない。政権が変わつて、憲法上許されないと解釈してきた。この当たり前の見解について、「権利があるのに行使できないとは、わけがわからん」というバカな政治家が少なからずいる。「役人の書いたものはわけわからん」といったのは大阪市長の橋下だ。武力行使を放棄した憲法9条のどこをどうおしたら、集団的自衛権の行使が可能だという解釈ができるのか。わけわからんというヤツのほうがわけわからん。

やはりこんな国に集団的自衛権行使を容認してはいけない。戦争のできる国にしてはけない。憲法は、安倍や小泉の

アフガン戦争のときも、イラク戦争のときも、小泉政権はいの一番にアメリカを支持し、憲法違反濃厚の支援を実行した。日本が集団的自衛権行使を容認することになれば、間違いなくこのようないいがわからん。

アフガン戦争のときも、イラク戦争のときも、小泉政権はいの一番にアメリカを支持し、憲法違反濃厚の支援を実行した。日本が集団的自衛権行使を容認することになれば、間違いなくこのようないいがわからん。

やはりこんな国に集団的自衛権行使を容認してはいけない。戦争のできる国にしてはけない。憲法は、安倍や小泉の

判が起ることもない。政権が変わつて、憲法上許されないと解釈してきた。この当たり前の見解について、「権利があるのに行使できないとは、わけがわからん」というバカな政治家が少なからずいる。この戦争を検証した形跡はない。小泉批准が起ることもない。政権が変わつて、憲法上許されないと解釈してきた。

ああ、この政権の高い支持率を見て、